

「ALLwatch」は弊社が提供するモニターサービスの総称です。

漏電警報設定についての注意点

最近、警報メールがやたらに多いとか漏電警報が飛んできたが現地に行ってクランプメーターで測定してみると警報値に至っていない、あるいは警報メールや復帰通報が来ないと言う問合せが幾つか来ています。良く調べてみると警報の飛ぶ条件設定や計測時間の違い等に問題がある事が判りましたのでご紹介します。

(1) 警報を出すまでの遅延時間の設定が短すぎるケース

- ① 図1の設定では遅延時間が3秒になっています。モーターの起動時にはかなり長い時間電流が増えますので50mAを超えることがあります。この時間はモーターの大きさにも依りますが30秒位続く場合がありますので遅延時間の設定は30秒以上が適当と思います。
- ② 遅延時間の設定が短いと警報が出やすくなります。通報の量が月15通を超えると1通に付20円の課金が発生しますのでご注意ください。

(2) 電流値が変動しているケース

図2はデータを10分間隔で2日間記録したグラフです。この様に変動が激しい場合や警報状態が短時間で復旧した場合は警報の出た時間と実際に現場で測定した場合とでは状態が違うために比較する事が難しくなります。

(3) 警報通報設定に問題があるケース

- ① 図3の設定では警報設定で(H)警報、復帰通知は出さずに(HH)(HHH)の警報、復帰通報を通報するような設定になっています。警報の動作は警報が出た事に対する復帰通報になっています。したがって(H)の警報が出た記録が無ければ(H)の復帰通報は出ません。
- ② (H)(HH)(HHH)の発生・復帰を通報する設定にすると、急に(HHH)警報点を超えるような漏電が出た時は(H)(HH)の警報が出ずにいきなり(HHH)警報が出ます。その逆に(HH)(HHH)から急に50mA以下になった時には(HH)(HHH)の復帰通報を出さずにいきなり(H)復帰通報が出るようになっていきます。このため図3のように(H)復帰通報にチェックマークが入っていないと復帰通報が出ない事になりますので注意が必要です。個々に発生・復帰通報を発信しないのは1回の警報で重複した警報メール、復帰メールを送るのを減らすためです。

図 1. 警報レベル設定の例

警報レベル設定(ユーザ用)							
設定コピー							
CH名称	単位	HHH	HH	H	発生遅延 (秒)	復帰遅延 (秒)	維持時間 (秒)
(A03)	mA	200	100	50	3	3	600
動力500kVA-ランス (A05)	mA	200	100	50	3	3	600
電力100kVA-ランス (A07)	mA	200	100	50	3	3	600
動力100kVA-ランス (A09)	mA	200	100	50	3	3	600
動力800kVA-ランス (A04)	℃	150	100	85	3	3	600
(A06)	℃	150	100	85	60	60	600
(A08)	℃	100	80	65	60	60	600
動力100kVA-ランス (A10)	℃	100	80	65	60	60	600

図 2. 10 分間隔、48 時間のデータ

※注意、このグラフは通常ご覧いただけません。



図3. 問題のある警報設定

[illegible]

この案内に関するお問い合わせは、下記のフリーダイヤルにて承っております。



 0120-053-606 (土・日・祝日を除く 9:30~17:30 (12:15~13:00 を除く))